

令和7年度

山形県公立高等学校入学者
選抜学力検査成績概況

令和7年5月

山形県教育委員会

<目 次>

国 語

1 結果の考察	1
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	1
問題別正答率（%）	2

社 会

1 結果の考察	3
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	3
問題別正答率（%）	4

数 学

1 結果の考察	5
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	5
問題別正答率（%）	6

理 科

1 結果の考察	7
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	7
問題別正答率（%）	8

英 語

1 結果の考察	9
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	9
問題別正答率（%）	10

資 料

令和7年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況

（入学定員・入学志願者等の数・合格者等の数等）

1 年度別比較	11
2 課程別・学科別	12
3 推薦入学者選抜実施状況	13

国語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

㊦の問三は、登場人物の言動の意味を捉える力をみる問題だが、正答率は約9割であり、「読むこと」の力が身に付いていることがうかがわれる。文学的な文章においては、登場人物の言葉や行動が、話の展開にどのように関わっているかを考えながら読むことを大切にしたい。㊧の問二は、自分の考えが分かりやすく伝わるように、話の構成を工夫したり資料を用いたりする力をみる問題だが、正答率は高く、学習の成果がみえる。論理的な構成や展開を考えて話したり、どのような資料をどのように用いればよいのかを考えたりすることを心掛けたい。㊨の作文は、資料から必要に応じて情報を読み取り、体験や知識と関連付けながら自分の伝えたいことを表現する力をみる問題だが、約6割の受検者が9点以上得点しており、学習の成果がみえる。一方で、高等学校から「体験を踏まえながら自分の考えを深められていない」という報告も寄せられている。書く目的や意図に応じて、情報を選択・整理した上で、文章の構成を工夫しながら自分の考えを表現する能力を身に付けたい。

(2) 課題がみえる問題

㊩の問五は、具体と抽象など情報と情報との関係を理解する力をみる問題だが、正答率は3割を下回り、課題がみえる。具体は例示の際など、抽象は共通する要素を抽出してまとめる際など、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解し、文章の内容を解釈する学習に取り組むたい。㊪の問七は、文章の内容を叙述を基に捉え、要旨を把握する力をみる問題だが、正答率が伸びなかった。説明的な文章を読むときには、段落ごとに内容を捉えたり、段落相互の関係を押さえたりしながら、文章全体への理解を深めることが大切である。㊫の問四は、書き手の主張について理解する力をみる問題だが、正答率が伸びなかった。古典を読むときには、現代語訳や語注などを手掛かりに、作品の登場人物の言動や作者の思いを考えることを通して、古典に表れたものの見方や考え方を学ぶ学習を大切にしたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 国語で正確に理解し、適切に表現することができる

基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図りながら、国語で表現された内容や事柄を正確に理解することや、国語を使って内容や事柄を適切に表現することができる。

(2) 自ら進んで読書に取り組むことができる

知識を得たり、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、図書館を活用するなどして、自ら進んで読書に取り組み、多様な情報を活用することができる。

(3) 授業者は、目指す資質・能力の確実な育成に向けた授業計画と評価の工夫を

授業者は、各単元で育成する資質・能力を適切に位置付けた年間指導計画を作成するとともに、言葉による見方・考え方を働かせて深い学びを実現する学習過程を大切にし、資質・能力の育成に適した言語活動の充実を図りたい。その上で、資質・能力が身に付いたかどうかを適切な評価規準に基づいて評価し、指導の改善につなげたい。

社 会

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

②の2(2)は、資料や主題図から、必要な情報を読み取る力をみる問題だが、正答率が7割を超えており、学習の成果がみえる。授業において、主題図などから、地域で見られる事象や特色など必要な情報を的確に読み取る学習が十分に行われていることがうかがわれる。⑥の3(3)は、現代の社会的事象について、資料を基に、思考・判断したことを表現する力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、学習の成果がみえる。今後も、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題について探究し、自分の考えを説明、論述する学習を心掛けたい。⑤の1(1)、⑥の1(2)は、基礎的な知識を問う問題だが、正答率が約9割と高く、日常の学習において、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識の習得が図られていることがうかがわれる。

(2) 課題がみえる問題

①の3は、世界の諸地域について、資料を読み取り、思考・判断する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる学習や、世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を捉える学習を大切にしたい。③の3(1)は、歴史に関わる事象の意味や意義を説明する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を考察する学習を心掛けたい。④の5は、世界の動きと関連付けて、日本の近現代史の大きな流れを捉える力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。近代や現代の日本と世界を大観して、時代の特色を考察するように心掛けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 身近な社会的事象について説明したり議論したりすることができる

身に付けた基礎的な知識を活用して、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を説明したり議論したりすることができる。

(2) 多面的・多角的に考察する学習に主体的に取り組み、学習の振り返りができる

持続可能な社会を築いていくために解決すべき課題について多面的・多角的に考察し、構想（選択・判断）することができる。学習の振り返りを行うことで、自分の学びや変容を自覚し、次の学びにつなげることができる。

(3) 授業者は、学習過程を工夫し、深い学びの実現を

授業者は、既習事項などを生かした単元を貫く課題の設定や、単元構成の工夫により、課題解決的な学習を充実させたい。また、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を育成するため、考察、構想（選択・判断）したことを、根拠や理由を明確にして説明・議論する場を充実させたい。さらに、社会的な見方・考え方を働かせる授業をコーディネートし、社会科としての本質に迫る深い学びを実現させたい。

1	18	1	1	イ	65.3
		2	2	(1) 都市名 メッカ 記号 ウ	49.8
		3	2	(2) (例) 原油の割合	75.3
		3	3	イ	39.3
		2	4	スペイン 語	58.0
		3	5	(1) (例) 森林を焼きはらい、できた灰を肥料にして作物を栽培する農業。	61.6
		3	(2)	ウ	43.8

問	備 考
1	2(1) 都市名と記号が両方できて正答とする。 5(1) 「灰」が用いられていること。「樹木を切りはらって燃やし、その灰を肥料として利用する農業。」などでもよい。
2	1(1) 全部できて正答とする。
3	1(1) 国名と記号が両方できて正答とする。 3(1) 「相続」が用いられていること。

2	17	1	(1) イ → エ → ア → ウ	37.9	3
		1	(2) ニュータウン	83.1	2
		2	(1) 二毛作	83.1	3
		2	(2) ウ	73.1	3
		3	(3) ①	48.9	3
		3	(例) トラックより船舶のほうが、二酸化炭素排出量が少ない	82.6	3

3	18	1	(1) 国名 百済 記号 ウ	38.4	3
		1	(2) エ	54.8	3
		2	保元の乱	22.8	2
		3	(1) (例) 分割して相続される	23.3	3
		3	(2) 後醍醐天皇	32.4	2
		4	(1) イ	51.1	3
		4	(2) 寺子屋	79.9	2

4	17	4	1	征韓論	41.6
		3	2	(例) 戦費が多かったにもかかわらず、賠償金が得られなかった	88.6
		3	3	ニューディール	81.7
		3	4	日独伊三国	83.6
		3	5	エ	27.4
		3	6	イ	43.8

問	備 考
4	3 「新規巻(ま)き直し」「ニューディール政策」「新規巻(ま)き直し政策」でもよい。
5	1(2) 「代表者」「反映」が用いられていること。 2(1) 「冤罪」でもよい。
6	3(2) aとbが両方できて正答とする。 3(3) 「廃棄」が用いられていること。

5	15	1	(1) ウ	94.1	2
		1	(2) (例) 代表者が国民の意見を政治に反映させる	70.3	3
		2	(1) えん罪	59.8	3
		2	(2) 三審制	89.0	2
		3	(1) エ	71.2	2
		3	(2) (例) 労働力率の高い年代	47.9	3

6	15	1	(1) 間接税	70.3	2
		1	(2) エ	88.1	2
		2	(1) P K O	69.9	2
		2	(2) 非常任理事 国	31.5	2
		3	(1) ア	72.1	2
		3	(2) a ア b 均衡価格	46.1	2
		3	(3) (例) 廃棄される食品の量を減らす	80.4	3

〔注意〕 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

数 学

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

②の2は、図形的な性質を捉え、作図する力をみる問題だが、正答率が高く学習の成果がみえる。図形の対称性や図形を決定する要素に着目し、見通しをもって作図できるようにしたい。②の4は、確率を用いて不確定な事象を捉え、説明する力をみる問題だが、受検者の53.4%が5割以上得点しており、学習の成果がみえる。説明する力を付けるために、説明に何を含まればよいかを明らかにすることが大切である。③の1は、伴って変わる二つの数量の関係を捉え、考察する力をみる問題だが、(1)と(2)のグラフの正答率はともに8割を超えており、学習の成果がみえる。関数の特徴を、表、式、グラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けることで、関数についての理解を深めることが大切である。

(2) 課題がみえる問題

①の4は、平面上に表現された空間図形を読み取り、その図形を考察する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。空間図形について、実感を伴いながら理解を深めるような学習を心掛けたい。②の3は、方程式を活用する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。方程式を活用するに当たっては、その立式の段階が重要である。事象の中の数量や数量の関係を式に表現する力を身に付けたい。④の1は、三角形の相似条件などを用いて、論理的に証明する力をみる問題だが、5割以上得点した受検者は全体の19.6%であり、課題がみえる。結論に至るまでの過程を、論理的に考察し表現する力を身に付けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 学習したことを活用するために、数学的活動に主体的に取り組むことができる

授業での数学的活動を通して、基礎的・基本的な内容について実感を伴って理解した上で、生徒自らが、既習内容とのつながりなどを基に問題の解決に向けて取り組むことができる。

(2) 授業以外の日常生活の様々な場面で、学習したことを活用することができる

授業の中だけでなく、日常生活の様々な場面でも、学習したことを積極的に活用して考えたり判断したりすることができる。

(3) 授業者は、生徒が数学を学ぶ楽しさやよさの実感につながる振り返りの充実を

生徒が自己の変容や数学的な見方・考え方のよさを実感できるように、指導計画の中に振り返りの場を効果的に位置付けたり、振り返る視点を与えたりしたい。さらに、生徒の数学的な見方・考え方を広げるため、振り返りの共有などを行う機会を設けたい。

1		32		1	
3	(1)	8	93.6		
4	(2)	$-\frac{4}{9}$	69.9		
4	(3)	$-3a+2$	72.6		
4	(4)	$-10+2\sqrt{2}$	73.5		
5	2	$(2x-1)^2=5x-1$ (例) $4x^2-4x+1=5x-1$ $4x^2-9x+2=0$ $x=\frac{-(-9)\pm\sqrt{(-9)^2-4\times4\times2}}{2\times4}$ $=\frac{9\pm\sqrt{49}}{8}$ $=\frac{9\pm7}{8}$ $x=\frac{9+7}{8}, x=\frac{9-7}{8}$ $x=2, x=\frac{1}{4}$		76.3	
4	3	15	個	18.7	
4	4	300π	cm^2	28.8	
4	5	ア		48.9	

2		29		2	
1	(1)	-2	56.6		4
	(2)	エ	52.1		4
2				74.4	5
3	(1)	(例) 作ったそばの数を x 人分とする。 $\frac{100}{5}x + \frac{500}{5}(58-x) = 3000$ (例) 作ったそばの数を x 人分, 作ったうどんの数を y 人分とする。 $\begin{cases} x+y=58 \\ \frac{100}{5}x + \frac{500}{5}y = 3000 \end{cases}$		37.0	6
	(2)	200	g	16.0	4
4		(例) 景品をもらえる確率は, ゲームSが $\frac{1}{2}$, ゲームTが $\frac{3}{5}$ であり, ゲームTのほうがゲームSより大きい。よって, 景品をもらいやすいのは, ゲームTである。			6
		100%	41.1		
		50~99%	12.3		
		1~49%	33.8		

3		20		3	
3	(1)	250	m	84.5	
3	ア	$y = 75x + 100$		64.8	
3	イ	9		87.7	
3	ウ	$y = 35x + 235$		47.5	
3	図			88.1	
5	2	10	分前	14.2	

4		19		4	
1	<証明> (例)	$\triangle AEC$ と $\triangle OEF$ において 対頂角は等しいから $\angle AEC = \angle OEF$ ① 仮定より, $\angle EOF = \angle BOD$ だから $\angle EOF = \frac{1}{2}\angle BOC$ ② 円周角と中心角の関係より $\angle EAC = \frac{1}{2}\angle BOC$ ③ ②, ③より $\angle EAC = \angle EOF$ ④ ①, ④より, 2組の角がそれぞれ等しいので $\triangle AEC \sim \triangle OEF$			9
		100%	13.2		
		50~99%	6.4		
		1~49%	53.9		
2	(1)	3	:	2	22.8
	(2)	$\sqrt{17}$	cm	0.5	5

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については, 各学校で適正な基準を設けること。

理 科

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

②の1(2)、③の3(1)、⑦の2(1)は、第1分野及び第2分野についての基本的な知識をみる問題であるが、正答率はいずれも9割を超えており、学習の成果がみえる。学習の基礎となる科学的な知識が定着していることがうかがわれる。④の3、⑥の1(1)は、正答率は8割を超えており、学習の成果がみえる。科学的に探究するために必要な観察、実験の基本的な技能が身に付いていることがうかがわれる。⑤の1は、実験の結果を処理する力をみる問題であるが、正答率は約8割と高かった。今後も、実験の結果を整理したり、探究的に学習活動をしったりする時間などを充実させるように心掛けたい。

(2) 課題がみえる問題

①の3は、動物の体のつくりについて、学習活動によって得た知識を基に表現する力をみる問題であるが、正答率が低く、課題がみえる。理科の見方・考え方を働かせながら、科学的な根拠に基づいて表現するような学習活動を充実させるように心掛けたい。⑤の3は、実験の結果を分析して解釈し、見いだした関係性や傾向を基に思考し、表現する力をみる問題であるが、正答率が2割を下回った。実験の結果と、分析して解釈したことの両方を示して表現する学習活動の充実を図りたい。⑧の3(2)は、電力量の単位について、思考し、表現する力をみる問題であるが、正答率が3割を下回った。日常生活や社会における科学の有用性を実感できるような場面を設定し、科学的に探究する態度を養いたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 科学的な知識や概念を使用したり、日常生活や社会と関連付けたりできる

自然の事物・現象に関して、科学的な知識や概念を使用して説明したり、日常生活や社会と関連付けて科学的に考察したりすることができる。

(2) 見通しをもって観察・実験を行い、考察したことを科学的に表現できる

観察・実験の目的を自ら考え、根拠のある予想や仮説を立て、結果を見通した検証計画が立案できる。観察・実験の結果を基に課題に正対した考察を行い、その内容を科学的な概念を使用し、適切に表現することができる。

(3) 授業者は、生徒の興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する指導計画と、指導と評価を一体化させた学習指導の工夫を

授業者は、生徒の興味・関心を高められるような事物・現象を題材にして、単元で育成を目指す資質・能力を明確にし、探究（問題解決）の過程を効果的に位置付けた指導計画を作成したい。また、指導と評価の一体化を図るため、学習の成立を促すための評価という視点を重視することによって、指導のねらいに応じて生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルを大切にしたい。

12		1	
3	1	食物網	78.1
3	2	分解	87.7
3	3	(例) 立体的に見える範囲が広がる -----	43.4
3	4	(図3) → ア → ウ → イ → (図1)	81.7

13		2	
2	(1)	維管束	73.5
3	1 (2)	エ	91.8
2	(3)	葉脈	82.6
3	2 (1)	(例) 葉の表側より, 葉の裏側の方が気孔の数が多い -----	81.7
3	(2)	イ	50.2

問	備 考		
1	3	「範囲」が用いられていること。	

13		5	
2	1	0.52	79.0
3	1 (1)	NaCl + H ₂ O + CO ₂	68.5
3	2 (2)	ア, ウ	54.3
2	(3)	エ	86.8
3	3	1.3 g	17.4

12		6	
3	1 (1)	(例) 手であおいで	98.2
3	1 (2) a	*銅	59.8
3	b	*塩素	
3	2	ウ	21.9
3	3	イ, エ	59.8

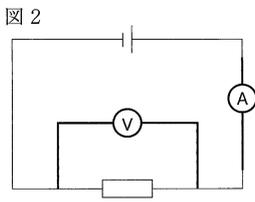
問	備 考		
5	2 (2)	すべてできて正答とする。順序は問わない。	
6	1 (2)	*の正答については, 両方でできて正答とする。	
	3	すべてできて正答とする。順序は問わない。	

12		3	
3	1	(例) 円の中心にくる	69.9
3	2	エ	72.6
3	3 (1)	南中高度	93.6
	(2)	ア	60.3

13		4	
3	1 (1)	等粒状 (組織)	83.6
3	(2)	イ	79.9
2	2	風化	86.3
2	3	ア	85.8
3	4	(例) ねばりけが弱い	83.6

問	備 考		
4	4	「ねばりけが小さい」などでもよい。	

12		7	
3	1	(例) 2つの力の大きさが等しいこと。 -----	77.2
3	2 (1)	3.2	90.4
3	(2)	フック (の法則)	88.6
3	3	イ	64.4

13		8	
3	1	対流	49.8
3	2		71.7
3	3 (1)	ウ	63.5
	(2)	0.7 Wh	23.3

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については, 各学校で適正な基準を設けること。

英 語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の2のNo.1は、日常的な話題について、必要な情報を聞き取る力をみる問題だが、約9割の正答率であり、学習の成果がみえる。自然な速度に近い音声で、聞いて理解できるようにになっていることがうかがわれる。④の2は、約8割の正答率であり、学習の成果がみえる。まとまりのある文章を読んで、大切な部分を捉えることができるようになっていくことがうかがわれる。⑤は、日常的な話題について、英語を読んで得られた情報を活用し、自分の考えを表現する力をみる問題だが、正答率が高く、学習の成果がみえる。今後も、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えを形成し、表現する学習を心掛けたい。

(2) 課題がみえる問題

②の1(1)は、基本的な言語材料を場面に応じて適切に活用する力をみる問題で、小学校で学習した語彙が扱われているが、正答率は4割を下回った。小学校で学んだ簡単な語句や基本的な表現も積極的に用いることで、それらの定着が深まるようにしたい。②の3(1)、(2)は、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成する力をみる問題だが、正答率が低かった。言語材料については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して、運用能力を高めていきたい。④の5は、まとまりのある文章を読んで、概要を把握する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。物語を読む際は、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれず、全体のあらすじを捉える学習を心掛けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 英語を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点を捉えることができる

目的や場面、状況などに応じて、何を聞き取らなければならないか、あるいは読み取らなければならないかを判断し、「聞くこと」や「読むこと」を通して、必要な情報や大まかな内容、大切な部分を理解することができる。

(2) 英語で聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えや気持ちなどを英語で伝えることができる

「聞くこと」や「読むこと」を通して理解した情報や考えなどを基に、伝えるべき内容を既存の知識や体験などとも関連付けながら判断し、「話すこと」や「書くこと」を通して表現することができる。

(3) 授業者は、育成を目指す資質・能力を明確にし、言語活動を通じた指導や発達段階に応じた指導の充実を

学年・領域別の目標に基づいて、単元や本時の明確な目標を設定し、生徒にとってコミュニケーションを行う必然性のある言語活動をその単元や本時の中心に位置付けたい。また、小学校で行った言語活動を踏まえて繰り返し指導したり、類似の場面を取り上げて想起させたりしながら、活用と定着を促したい。

1	26	1	1	No.1	イ	86.8
				No.2	エ	73.1
			2	No.1	ア	88.1
				No.2	ウ	64.4
			3	ア	sister	87.7
				イ	kind	90.0
				ウ	doctor	67.6
			3	She's now learning several ((例) languages		
				エ	she will	44.7
			5	for working overseas.		

問	備 考
1	3 エ 対話文に即した内容であること。
2	3 (1) 全部できて正答とする。 3 (2) 全部できて正答とする。
3	2 対話文に即した内容であること。 3 *の正答については、順序は問わない。

2	18	1	(1)	Thursday	35.2
			(2)	each	38.8
			(3)	wish	73.5
		2	(1)	イ	68.5
			(2)	ウ	57.1
		3	(1)	X カ Y オ Z イ	27.9
			(2)	X イ Y ア Z ウ	43.8

3	16	1	X	ドイツ	77.2	
			Y	イタリア	75.3	
			Z	韓国	81.3	
		2	(例) 多くの日本人が環境を守ることに興味がある			
			63.0			
		3	*ウ			66.2
			*オ			58.9

4	30	4	1	() D	48.4
			2	(例) ニナさんと将棋について英語で話すこと。	81.3
			3	エ	38.4
			4	(1)	(例) He was six.
				(2)	(例) Yes, she did.
			5	エ → イ → ウ → ア → オ	48.4
			6	I	((例) How many members are
				II	54.8) there in the club?
			4	I think teaching <i>shogi</i> is a good ((例) way to	
			4	improve my 32.4) skills.	

問	備 考
4	2 本文に即した内容であること。 4 本文に即した内容であること。 5 全部できて正答とする。 6 4語以上の英語で、本文及び対話文の文脈に合う内容であること。

5	10	【評価の観点】
		(1) 内容
		○ 問われた内容に対して、自分の考えなどが明確に述べられているか。
		○ 自分の考えなどに対する理由や具体例が述べられているか。
		○ 25語以上の英語で、まとまりのある内容になるように書いているか。
		(2) 正確さ
		○ 文字や符号を識別し、語と語の区切りや語句の綴りなどに注意して、正しく書いているか。
		○ 文構造や文法事項などの知識を活用して、正しく書いているか。
		正答率 83.1

問	備 考
5	(例) You should go to Mt. Zao. It's very famous for its beautiful nature. You can take a lot of pictures of unique flowers there. You can also enjoy bird watching there.

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

令和7年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況 (入学定員・入学志願者数・合格者数等)

1 年度別比較

年 度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
中学校卒業生数		9,112	9,324	9,159	8,927	8,443	
全 日 制	県 立	入学定員	6,720	6,600	6,480	6,280	6,280
		入学志願者等の数	5,786	5,554	5,343	4,974	5,086
		倍 率	0.86	0.84	0.82	0.79	0.81
		合格者等の数	5,400	5,261	5,024	4,810	4,813
		最終倍率	0.85	0.83	0.81	0.78	0.80
		充足率	80.4%	79.7%	77.5%	76.6%	76.6%
	市 立	入学定員	280	280	280	280	280
		入学志願者等の数	338	331	338	375	371
		倍 率	1.21	1.18	1.21	1.34	1.33
		合格者等の数	282	282	280	282	281
		最終倍率	1.21	1.18	1.20	1.34	1.32
		充足率	100.7%	100.7%	100.0%	100.7%	100.4%
	合 計	入学定員	7,000	6,880	6,760	6,560	6,560
		入学志願者等の数	6,124	5,885	5,681	5,349	5,457
		倍 率	0.87	0.86	0.84	0.82	0.83
		合格者等の数	5,682	5,543	5,304	5,092	5,094
		最終倍率	0.86	0.85	0.83	0.80	0.82
		充足率	81.2%	80.6%	78.5%	77.6%	77.7%
定 時 制	入学定員	280	280	280	280	280	
	入学志願者等の数	103	130	133	158	139	
	倍 率	0.37	0.46	0.48	0.56	0.50	
	合格者等の数	102	125	130	152	134	
	最終倍率	0.37	0.45	0.47	0.55	0.49	
	充足率	36.4%	44.6%	46.4%	54.3%	47.9%	
総 計	入学定員	7,280	7,160	7,040	6,840	6,840	
	入学志願者等の数	6,227	6,015	5,814	5,507	5,596	
	倍 率	0.86	0.84	0.83	0.81	0.82	
	合格者等の数	5,784	5,668	5,434	5,244	5,228	
	最終倍率	0.84	0.83	0.81	0.79	0.81	
	充足率	79.5%	79.2%	77.2%	76.7%	76.4%	

(注)

- (1) 中学校卒業生数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年と義務教育学校9学年の生徒数の合計とする。
- (2) 入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 倍率＝入学志願者等の数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
- (6) 充足率＝合格者等の数÷入学定員×100

2 課程別・学科別

課程	区 分	入学定員		受検者等の数		合格者等の数		
	学 科	人 数	前年度比	人 数	最終倍率	人 数	充足率	
全 日 制	普通科	3,200	0	2,577	0.81	2,615	81.7%	
	専門教育を主とする学科	理 数	120	0	139	1.16	117	97.5%
		探 究	240	0	427	1.78	240	100.0%
		音 楽	40	0	22	0.55	22	55.0%
		体 育	80	0	98	1.23	81	101.3%
		農 業	360	0	198	0.55	198	55.0%
		工 業	1,120	0	788	0.70	773	69.0%
		商 業	560	0	589	1.05	501	89.5%
		水 産	40	0	22	0.55	22	55.0%
		家 庭	80	0	46	0.58	46	57.5%
		看 護	40	0	35	0.88	35	87.5%
		情 報	40	0	51	1.28	40	100.0%
	総合学科	640	0	404	0.63	404	63.1%	
	合 計	6,560	0	5,396	0.82	5,094	77.7%	
定 時 制	普 通	200	0	118	0.59	115	57.5%	
	総合学科	80	0	19	0.24	19	23.8%	
	合 計	280	0	137	0.49	134	47.9%	
全 定 合 計		6,840	0	5,533	0.81	5,228	76.4%	

(注)

- (1) 受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (2) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
- (3) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (4) 充足率＝合格者等の数÷入学定員×100

3 推薦入学者選抜実施状況（令和7年度）

区分	課程 学科	全 日 制												
		普通	専 門 教 育 を 主 と す る 学 科											総合学科
			理数	探究	音楽	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	
入学定員	3,200	120	240	40	80	360	1,120	560	40	80	40	40	640	
募集人員	62	—	—	24	64	104	304	126	12	24	12	10	164	
志願者数	10	—	—	22	93	88	357	237	16	20	27	9	99	
内定者数	10	—	—	22	68	73	268	146	12	18	12	8	95	
志願倍率	0.16	—	—	0.92	1.45	0.85	1.17	1.88	1.33	0.83	2.25	0.90	0.60	
充足率	16.1%	—	—	91.7%	106.3%	70.2%	88.2%	115.9%	100.0%	75.0%	100.0%	80.0%	57.9%	

区分	全日制
	計
入学定員	6,560
募集人員	約 906
志願者数	978
内定者数	732
志願倍率	1.08
充足率	80.8%

区分	課程 学科	定 時 制		
		普通	総合	計
入学定員		200	80	280
募集人員		—	—	—
志願者数		—	—	—
内定者数		—	—	—
志願倍率		—	—	—
充足率		—	—	—

区分	全日制・定時制 総 計
入学定員	6,840
募集人員	約 906
志願者数	978
内定者数	732
志願倍率	1.08
充足率	80.8%

<注>

- (1) 志願倍率＝志願者数÷募集人員
 - (2) 充足率＝内定者数÷募集人員×100
 - (3) 推薦選抜で志願者があった学校
 全日制：27校（前年28校）
 63学科（前年65学科）
 - (4) 募集人員（実施要項より）
 普通科（小規模校）：30%以内
 理数科：30%以内（実施校なし）
 音楽科：60%程度
 体育科：80%程度
 職業に関する学科：30%以内
 総合学科：30%以内
- ※県外志願者受入れを実施する場合は50%以内
 ※募集人員の計は各校で定めた人員を単純に合計したものである
- (5) 連携型選抜、前期（特色）選抜は含まれていない